

失敗しない緑のカーテンのこつ

省エネしながら
涼しい夏を！

つる性の植物を利用した緑のカーテンは、日よけ効果と冷却効果で厳しい夏の暑さ対策として人気があります。しかし、挑戦してみたもののうまくいかなかったという声も聞かれます。上手に育てて、目にも優しく涼しげな緑のカーテンを育てるこつを紹介しましょう。

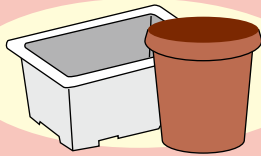


西洋アサガオのヘブンリーブルーはつるの伸びが旺盛

必要な用具

ここがポイント！

大きめのコンテナで
1株当たりの土の量は多めに。
葉を多くするには追肥が大切



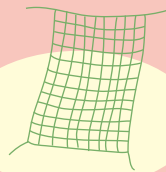
コンテナ
(容量30Lまたは50Lの深型)



鉢底石



野菜用または
花用の培養土



ネット
(網目は10~24cm角目またはひし目)



支柱



肥料



ひもや針金・結束バンド、スコップ、じょうろ

まきどきと植えどき

緑のカーテンの寿命は、管理の仕方にもよりますが2カ月程度です。一番茂らせたい時期と成長期間を逆算して準備します。一般的に園芸店の店頭で苗が並ぶのは4月の下旬です。ただ、この時期に苗を植えるとき節風や遅霜によって、株が疲れてカーテンに育たないことがあります。そこで、関東などの温暖地であれば5月の連休に種をまき、苗なら5月末から6月上旬に植え付けてみるのがいいでしょう。

丈夫な品種を選ぶ

野菜でも花でもそうですが、苗で購入する場合は葉の色が濃く、葉が茎に付いている節と節の間隔が短いもの、茎が太いものを選びます。また、病気に強く、つるの伸びの良い丈夫な品種を選びましょう。例えばキュウリは品種によって、うどんこ病などの病気にかかりやすいものがあります。そこでキュウリならうどんこ病に強く、実の収穫量も多い品種(例：フリーダム)を選べば、病気で枯れにくく育てやすいのです。

1株当たりの土は多めに

コンテナのサイズは、できるだけ大きめのものを選びます。1株植えなら約30L、2株植えなら約50Lを目安にします。1株当たりの土の量が多いほど水やりの手間が省け、よく茂ります。鉢底石を薄く敷き、培養土をコンテナの縁から2cm程度まで入れます。種は室内で発芽させ、日当たりの良い場所である程度生育させてから植え付けるのがお勧め。苗は土が付いたままの苗が入る大きさの穴を開けて入れ、隙間に土を入れて茎の根元にも土をかぶせます。定植後はたっぷり水やりをします。通気や虫の侵入を防ぐため、コンテナは地面にしきかきせずブロックなどをかませます。